

8. グラジオラス

・殺菌剤（参考農薬）

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M3+1	ホーマイ水和剤	30分間球根浸漬	植付前又は貯蔵前	1回	
		球根粉衣			
19	ポリオキシンAL水溶剤	散布	発病初期	8回以内	

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	アドマイヤーフロアブル	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物(きくを除く)

・殺虫剤（参考農薬）

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	オルトラン水和剤	10分間球根浸漬	植付時	1回	
1	トクチオン乳剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物(ばら、きく、アリムラ、シクラメン、ベゴニア、宿根かすみそうを除く)
10	ニッソラン水和剤	散布	-	2回以内	花き類・観葉植物
21	ピラニカEW	散布	発生初期	1回	花き類・観葉植物(カーネーション、きくを除く)

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚊毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
ウイルス性病害 (BYMV) モザイク病 (CMV) (V)	生育期間	1. ウィルスを保毒した球根による伝播は広範囲に及ぶため、健全な球根を用いる。 2. 罹病している株の木子や球根を繁殖に用いない。 3. アブラムシ類防除のため、アブラムシ類の項、又は「21. 花き類・観葉植物」の項を参考に、定期的に殺虫剤を散布する。 4. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので定期的に除草する。 5. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 木子による球根養成期に、潜在感染する可能性が高い。 2. アブラムシ類の徹底防除が重要である。
ボトリチス病 (F)	生育期間	1. 施設では過湿にならないよう密植を避け、換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. ポリオキシンAL水溶剤 2,500倍液を散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統の薬剤を連用しない。

病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
硬化病 (F)	生育期間	1. 連作ができる限り避ける。 2. 前作の発病株残さを焼却するか、ほ場外に埋却する。	
葉枯病 (F)	生育期間	1. 多発ほでは、2~3年の輪作を行う。	
球根腐敗病 (F)	植付前 貯蔵前	1. 種球根は健全なものを厳選し、発病株は萌芽時から徹底して抜き取り、伝染源の除去に努める。 2. 収穫した球根は傷を付けないように選別・調整し、送風乾燥にて速やかに乾燥し、風通しの良い冷暗所で貯蔵する。 [参考農薬] 1. 球根に対する薬剤処理は、植付前にホーマイ水和剤 200 倍液に 30 分間浸漬処理するか、球根重量の 1.0% に当たるホーマイ水和剤を球根に粉衣する。	1. 消毒液の残液については、農薬廃液処理装置を用いて処理するか、産業廃棄物処理業者に処分を依頼する等適正に処理する（特別指導事項参照）。
ハダニ類	生育期間	[参考農薬] 1. ニッソラン水和剤 2,000~3,000 倍液、又はピラニカ E 2,000 倍液を発生初期に散布する。	
アブラムシ類	生育期間	1. アドマイヤーフロアブル 2,000 倍液を発生初期に散布する。	1. アドマイヤーは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
アザミウマ類	植付時	[参考農薬] 1. オルトラン水和剤 1,000 倍液に球根を 10 分間浸漬する。	
	生育期間	[参考農薬] 1. トクチオン乳剤 1,000 倍液を散布する。	1. トクチオンは、トマト、メロン等にかかると特異的に臭いが残るので、他作物にかかるないように注意する。